

I 研究主題 自他の生命を尊重し、防災対応能力を身に付ける生徒の育成 ～小・中 9 年間を見通した防災教育の在り方を通して～

II 主題設定の理由

我が国は世界でも有数の災害大国であり、近年では、東日本大震災における大地震や津波、また、風水害等多くの自然災害に見舞われている。本県においても、平成 23 年 1 月の新燃岳噴火や平成 17 年 9 月の台風 14 号による風水害等が発生しており、自然災害と無関係とはいえない。また、平成 25 年 3 月に内閣府が示した南海トラフ沖巨大地震の被害想定によると、本県は深刻な被害が予想されるとの見解が出され、自然災害から命を守るための取組は喫緊の課題である。

この課題に対し、学校教育が果たす役割は大きい。文部科学省は東日本大震災を機に、今までの防災教育の在り方を見直し、平成 25 年 3 月に『生きる力』を育む防災教育の展開を 15 年ぶりに改訂した。この中で、これからの防災教育で目指すものは「災害に適切に対応する能力の基礎を培う」こととした上で、「主体的に命を守り抜くこと」「発達の段階に応じた系統的な指導」「学校での教育活動全体の有機的関連」の重要性が強調された。本県では、第二次宮崎県教育振興基本計画 施策の目標Ⅳ－施策 2 の取組として、平成 24 年度より「意識が変わる！行動が変わる！学校防災推進事業」を展開しており、防災教育の推進役となる人材の育成や研究推進校による指導方法、教材等の開発が進められている。

本校では、平成 24 年度に防災主任が設置され、危機管理マニュアルの共通理解や A E D を使った救急救命訓練等の職員研修実施や避難訓練、地域との合同防災訓練の内容の見直しを行った。その結果、教職員の防災意識が高まり、多くの生徒が、前年度の合同防災訓練と比べて、より一層真剣に取り組むようになってきた。

平成 24 年度に実施したこれらの取組をさらに充実させるためには、2 つの解決すべき課題がある。第一の課題は、教職員同士が、より効果的な防災教育に関する指導方法を共通理解・共通実践する場が十分確立されていないことである。第二の課題は、生徒が防災に関する学習で身に付けた安全な行動を日常の生活に十分反映しているとはいえないことである。

そこで、生徒に防災対応能力を身に付けさせる防災教育の在り方について、「教職員の指導力向上」「学級活動の工夫」という 2 つの観点で研究を進めていく。「教職員の指導力向上」については、まず、学校における教育活動の関連と小・中 9 年間の発達の段階に着目して、防災対応能力の育成イメージを明確にしていく。さらに、教職員に対し、防災対応能力の育成イメージを共有させ、指導力を向上させるための取組として、職員研修の工夫や資料等の作成を行う。「学級活動の工夫」については、生徒にこれまでに身に付けた防災の知識・技能を活用させ、想定した災害の対応を考えさせる授業を実施する。

このような取組を通して、自他の生命を尊重し、主体的に防災対応能力を身に付ける生徒が育成できると考え、本主題を設定した。

III 研究目標

「教職員の指導力向上」「学級活動の工夫」の観点から、小・中 9 年間を見通した防災教育の在り方を究明し実践していくことで、自他の生命を尊重し、主体的に防災対応能力を身に付ける生徒の育成を目指す。

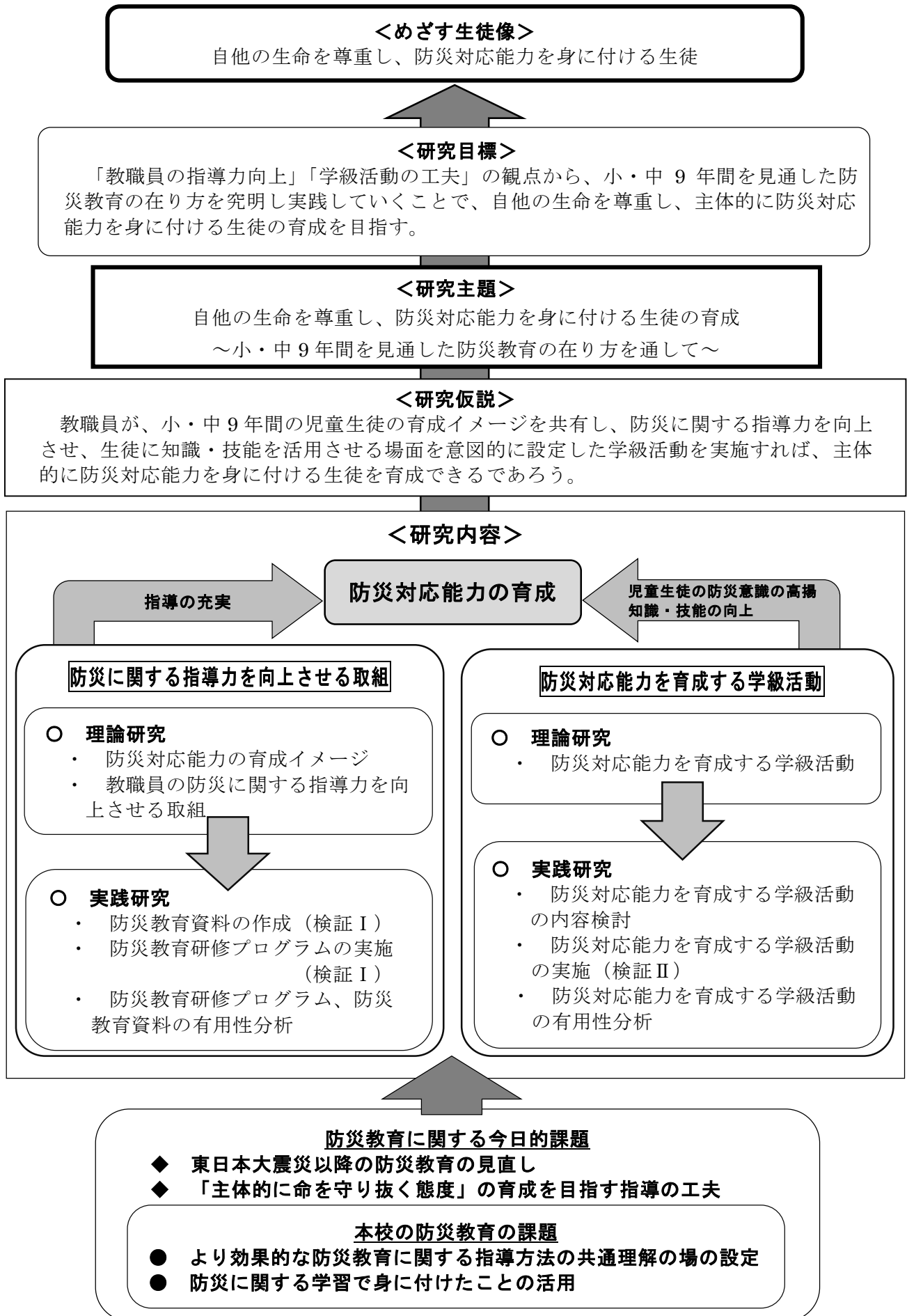
IV 研究仮説

教職員が、小・中9年間の児童生徒の育成イメージを共有し、防災に関する指導力を向上させ、生徒に知識・技能を活用させる場面を意図的に設定した学級活動を実施すれば、主体的に防災対応能力を身に付ける生徒を育成できるであろう。

V 研究計画

月	研究内容	研究事項	備考
4	○ 研究の方向性	○ 文献研究 ○ 国・県の指針、先行研究の内容把握 ○ 研究主題・副題の設定	
5	○ 研究の方向性 ○ 実態把握	○ 研究仮説・研究内容決定 ○ 理論構築 ○ 実態把握の方法等検討 ○ 実態調査作成	
6	○ 実態分析	○ 実態調査の実施・分析	
7	○ 検証Ⅰの構想	○ 検証Ⅰの内容検討及び準備	
8	○ 検証Ⅰ ○ 理論の再構築	○ 検証Ⅰの実施 ○ 検証Ⅰ後の実態調査実施・分析 ○ 検証Ⅰに関する事後研究	8月22日実施 (宮崎市立生目台 中学校)
9	○ グループ協議会 ○ 検証Ⅱ（授業実践）の構築	○ グループ協議会用資料等準備 ○ グループ協議会での中間発表 ○ 理論の再構築 ○ 検証Ⅱの内容検討及び準備	
10	○ 検証Ⅱ	○ 検証Ⅱの実施 ○ 検証Ⅱ後の実態調査実施・分析 ○ 検証Ⅱに関する事後研	10月30日実施 (宮崎市立生目台 中学校)
11	○ 研究のまとめ	○ 研究の成果・課題の整理 ○ 全体協議会での発表内容の整理 ○ 全体研究協議会資料等作成	
12	○ 全体協議会 ○ 研究のまとめ	○ 全体協議会での中間発表 ○ 研究報告書の作成	
1	○ 研究のまとめ	○ 研究報告書の起案 ○ 研究報告書訂正	
2		○ 研究発表会での発表内容の整理 ○ 研究発表会用資料等作成（パネル含む）	
3	○ 研究発表会	○ 研究のまとめと反省	

VI 研究構想



Ⅶ 研究の実際

1 基本的な考え方

(1) 主題「自他の生命を尊重し、防災対応能力を身に付ける生徒」について

ア 「自他の生命を尊重し」とは

自然災害に対して、まず考えるべきことは、自分の身の安全を守ることである。いつ起こるか分からない災害に対する準備も含め、自分で判断しながら、安全な行動をとらなければならない。また、災害後の復旧・復興に向けて互いに助け合うことや、他者のことを思いやり、他者のために行動することも必要である。

よって、「自他の生命を尊重し」を以下のようにとらえる。

自分の命を大切にし、他者に対しても配慮しようとする心構えをつくること

イ 「防災対応能力」とは

災害への対応は、災害時の安全確保、災害後の復興だけでなく、災害への備えも重要であり、このような一連の対応に主体的に取り組む能力が必要であると考ええる。

よって、防災対応能力を「自分の命を守り抜く力」と「他者のために貢献する力」を合わせたものと定義し、それぞれの力を以下のようにとらえる。

自分の命を守り抜く力	災害から自分の命を守り抜くために、主体的に事前の備えを行った上で、災害時に状況を正しく判断し、行動する力
他者のために貢献する力	他者のために、自ら進んで災害に対する事前の備えを行った上で、被災後の復旧・復興等に参画する力

(2) 副題「小・中 9 年間を見通した防災教育」とは

小・中 9 年間は、心身の発育発達の面からみると、一生のうちでも、大きな変化を見せる時期であるため、各発達の段階の特性を考慮して、防災教育を進めていく必要がある。

よって、「小・中 9 年間を見通した防災教育」を、以下のようにとらえる。

小・中 9 年間の発達の各段階における児童生徒の目指す姿や、学習内容の系統性を把握しながら進める防災教育
--

(3) 「教職員の防災に関する指導力」とは

これまでの防災教育では、「児童生徒の安全確保」に関する指導が重視され、教職員には、児童生徒の安全を守るために必要な知識・技能の習得が重要であるとされてきた。このことは、これから先の防災教育においても必要なことであるが、それと同時に、児童生徒の防災対応能力を育成するために、防災に関する専門的な知識・技能に基づいて、児童生徒に指導していかなければならない。

よって、「防災に関する指導力」を以下のようにとらえる。

防災教育に関する専門的な知識・技能に基づいて、児童生徒の防災対応能力を育成する力
--

2 理論研究

(1) 防災対応能力の育成イメージ

『生きる力』を育む防災教育の展開(文部科学省 平成 25 年 4 月)によると、防災教育のねらいは、【表 1】のように、3 つの観点で定められている。

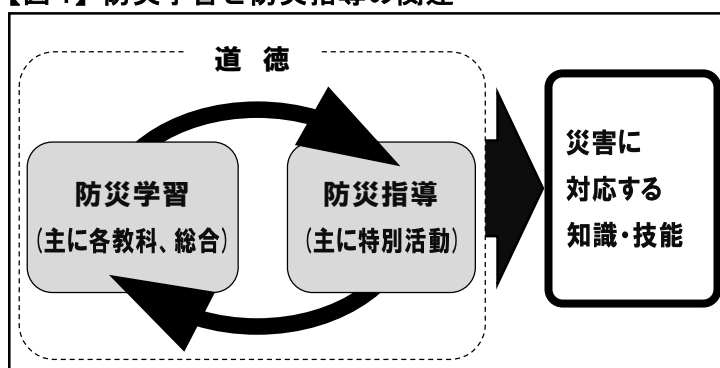
【表1】防災教育のねらい

知識、思考・判断	自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。
危険予測、主体的な行動	地震、台風等の発生に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
社会貢献、支援者の基盤	自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

また、防災教育は、「防災に関する基礎的・基本的事項を活用し、災害時に適切な意思決定ができること」を目的とした防災学習と「災害に対する実践的な能力や態度、望ましい習慣を身に付けること」を目的とした防災指導で構成している。学校における教育活動において防災教育を進める際には、防災学習は、主に各教科、総合的な学習の時間で、防災指導は、主に特別活動で取り組むとしている。

防災対応能力の育成を目指して、防災教育をさらに充実したものにするためには、防災学習と防災指導の関連を明確にし、指導を進める必要がある。そこで、学校における防災学習と防災指導の関連を【図1】のようにとらえる。

【図1】防災学習と防災指導の関連



指導者は、道徳で育まれる道徳性を基盤に、児童生徒が既に取り組んでいる防災学習に関する学習内容を把握しながら、防災指導を行う。そして、防災指導における学習活動とつながりの深い学習内容を、防災学習で重点的に指導する。このサイクルを繰り返すことで、防災学習と防災指導が共に充実し、児童生徒の災害に対応する知識・技能の定着が図られると考えた。

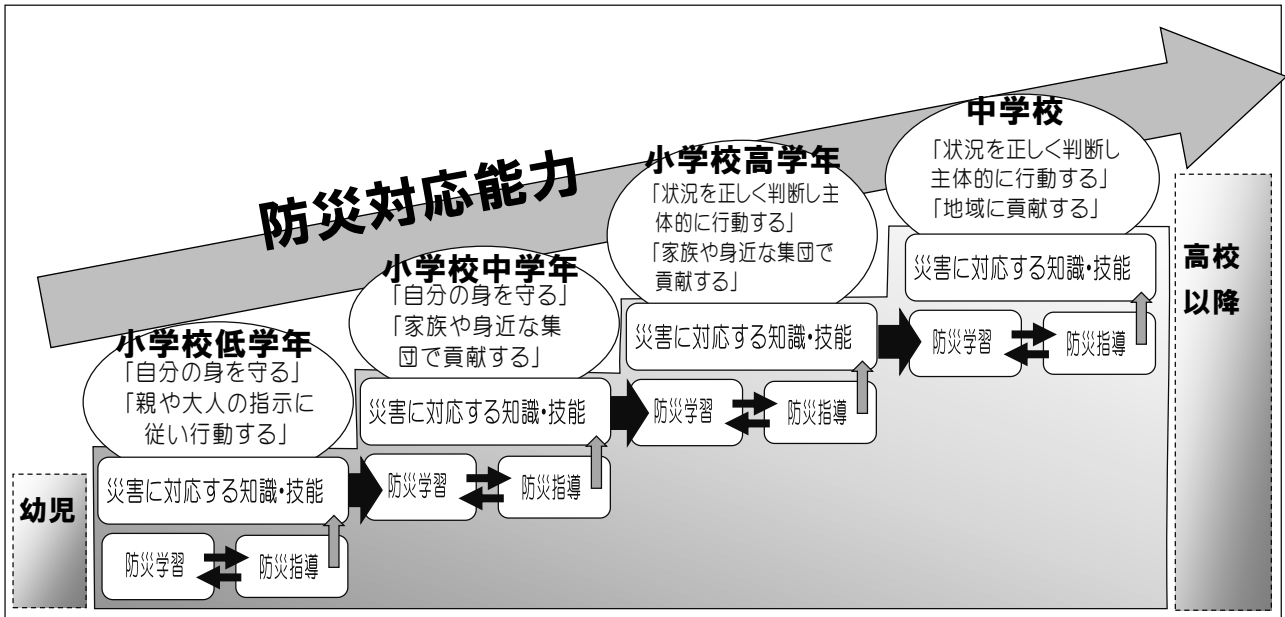
また、小・中9年間の心身の発育発達を考えると、各発達の段階における児童生徒の目指す姿は、【図2】で示すような段階があると考えられる。

【図2】防災対応能力と発達の段階

発達の段階 防災対応能力	幼児	小学校			中学校	高校以降
		低学年	中学年	高学年		
自分の命を守り抜く力	自分の身を守る	状況を正しく判断し、主体的に行動する				
他者のために貢献する力	親や大人の指示に従い行動する	家族や身近な集団で貢献する	地域に貢献する		安全な社会づくりに貢献する	

以上のことから、小・中9年間の防災対応能力の育成イメージを【図3】のようにとらえる。教職員が、防災学習と防災指導の関連とともに、児童生徒が前の発達の段階までに身に付けている災害に対応する知識・技能を把握しながら指導を進めることで、児童生徒の災害に対応する知識・技能のさらなる定着が図られる。この過程を繰り返すことで、児童生徒の防災対応能力を育成できると考えた。

【図3】防災対応能力の育成イメージ

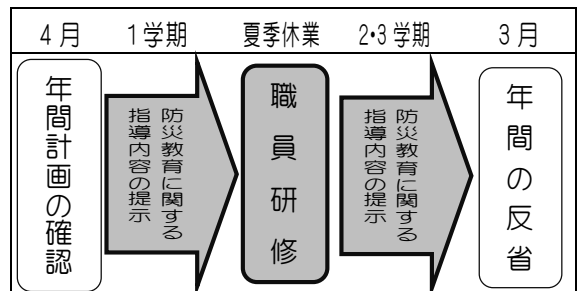


(2) 教職員の防災に関する指導力を向上させる取組

教職員が、防災対応能力の育成イメージに即して指導を進めるためには、担当する学級・学年、教科だけでなく、他の校種や学年、教科に関することも共通理解しながら、指導を行わなければならない。そのためには、教職員に防災対応能力の育成イメージを意識させ、防災に関する指導力を向上させる取組が必要である。教職員が、防災に関する指導力を向上させることができれば、防災学習・防災指導の際、児童生徒に対して、根拠に基づいて説明し、適切なアドバイスを与えることができ、主体的な学びを引き出す基盤となりうる。

教職員の防災に関する指導力を向上させるには、【図4】で示すように、防災教育担当者が、職員研修と関連付けて、防災教育に関する指導内容を全教職員に示し、年間を通して計画的に指導に取り組みさせることが重要ととらえる。その際、必要だと考えられる「防災教育研修プログラム」「防災教育資料」を以下のように考えた。

【図4】教職員の防災に関する指導力を向上させるための防災教育担当者が行う取組



「防災教育研修プログラム」とは、防災に関する職員研修の進行計画で、指導に必要な知識・技能の習得を目的として防災教育の概要や指導例を示す「防災教育に関する講義」、指導力の向上を目的としてワークショップの手法を用い、想定場面における危険発生や行動予測を行う「防災ワークショップ」の2つで構成する。さらに、研修の実施計画、説明用スライド、司会進行表、ワークショップで使う資料等をデジタルデータ化した研修プログラムキットとしてまとめることにした。

「防災教育資料」は、教職員がいつでも防災教育に関する学習内容を確認できるようにすることを目的として、小・中9年間での防災教育を見通すことができるものと各教科での指導例を示したものの2種類の資料で構成することにした。

(3) 防災対応能力を育成する学級活動

学習指導要領解説 特別活動編(平成22年4月 文部科学省)によると、学級活動では、次のことをねらいとした学習内容を取り扱っている。

「防犯を含めた身の回りの安全、交通安全、防災など、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を保つために必要な事柄を理解し、進んできまりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成すること」 (小学校)

「人間の諸活動の基礎となる健康安全や食を中心として、現在及び将来において生徒が当面する諸問題に対応するとともに、生徒自ら健全な生活態度や習慣の形成を図っていく資質や能力を育成すること」 (中学校)

このような学習内容が年間指導計画に位置付けられていることから、学級活動において、防災対応能力の育成を重点とした指導を行うべきであると考え。学級活動で防災対応能力の育成を重点とした指導を行うには、次の2点を考慮することが重要であると考え。

第一に、防災対応能力の育成イメージに即して、児童生徒が今までに身に付けた災害に対応するための知識・技能を授業の中において活用する場面を位置付ける。第二に、指導者は、児童生徒の災害経験の有無を事前に把握する必要があるが、一般的には、災害経験は少ないと考えられるので、「災害は起こる可能性がある」という視点に立って、児童生徒や地域の実態に合った災害とその状況を学習課題として設定する。この2点を考慮した授業を行うことで、児童生徒は、災害が自分にも関係があることととらえ、積極的に学習活動に取り組み、防災対応能力を身に付けることができると考える。

そこで、【表2】に示す「動機付け」「設定・提示」「想起」「アドバイス」の「防災指導の4つのポイント」を、1単位時間の学習過程に【表3】で示すような形で位置付けた。

【表2】「防災指導の4つのポイント」

	内 容
動機付け	○ 児童生徒に、防災を学ぶことの必然性を感じ取らせるために、資料やその提示の仕方を工夫すること。
設定・提示	○ 学習課題を児童生徒や地域の実態を考慮した自然災害や場所を想定した形で設定すること。 ○ 児童生徒が学習課題で設定された場面をイメージしやすくするために、資料やその提示の仕方を工夫すること。
想起	○ 児童生徒に、今までに身に付けた災害に対応する知識・技能を想起させるために、資料やその提示の仕方を工夫すること。
アドバイス	○ 児童生徒の活動に対して、以下の点に留意し、具体的な助言や説明を行うこと。 ・ 事前に各学校の災害対応マニュアルや外部資料等で、学習課題に対する適切な対応の仕方を把握しておくこと。 ・ 想定外の被害発生を考慮し、その場で考えられる最善の行動をとることの大切さを伝えること。

【表3】1単位時間における「防災指導の4つのポイント」の位置付け

	学習活動の流れ	4つのポイント
導入	○ 防災について学ぶ必要性を知る。	「動機付け」
展開	○ 学習課題を知る。 ○ 学習課題を解決する。	「設定・提示」 「想起」 「アドバイス」
終末	○ 防災について、自分でできることを考える。	「アドバイス」

3 防災教育に関する実態調査及び分析

(1) 児童生徒に対する実態調査

児童生徒の防災に関する実態把握のために、調査（本校の全学年生徒 283 名、本校区内小学校の第 5・6 学年児童 200 名 実施時期：7 月）を行った。質問項目は、【表4】のように防災教育のねらいと関連付けて作成し、4段階の選択式とした。結果は【図5】のとおりである。

【表 4】児童生徒の実態調査 質問項目

質問項目	ねらいとの関連
1 私は、台風や地震がどのようにして起こるか知っている。	知識
2 私は、台風や地震でどのような災害が起こるか知っている。	知識
3 私は、右の図のマーク（津波避難所）の意味を知っている。	知識
4 私は、学校の避難訓練に真剣に取り組んでいる。	行動
5 私は、住んでいる地域でどのような災害が起こりやすいか予想できる。	行動
6 私は、災害が起きた時に、安全な場所がどこかを知っている。	行動
7 私は、災害が起きた時に、どこに逃げて、家族とどのように連絡を取るか、分かっている。	行動
8 私の家には、災害用の非常食や水等を準備している。	行動
9 私は、災害が起きたら、自分の命を守るために、まずは逃げると思う。	行動、貢献
10 私は、災害が起きたら、近くの人に声をかけながら避難すると思う。	貢献
11 私は、避難した後、わがままを言わず、決められたルールを守ると思う。	貢献
12 私の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加すると思う。	貢献

※ 知識…「知識、思考・判断」、行動…「危険予測、主体的な行動」、貢献…「社会貢献、支援者の基盤」

児童生徒全体の肯定的な回答の割合をねらいとの関連ごとにとみると、「知識、思考・判断」が72%、「危険予測、主体的な行動」が65%、「社会貢献、支援者の基盤」が85%であった。

「あてはまる」の割合を学年ごとにとみると、「危険予測、主体的な行動」が小学6年42%、中学1年32%（【図5】参照）、「知識、思考・判断」が小学6年51%、中学1年26%、「社会貢献、支援者の基盤」が小学6年55%、中学1年48%であった。いずれも中学1年の方が小学6年より低く、小学校で身に付けた防災に関する知識・技能が、中学校での防災学習・防災指導時の活用や日頃の安全な行動に十分結び付けられていないと推測される。

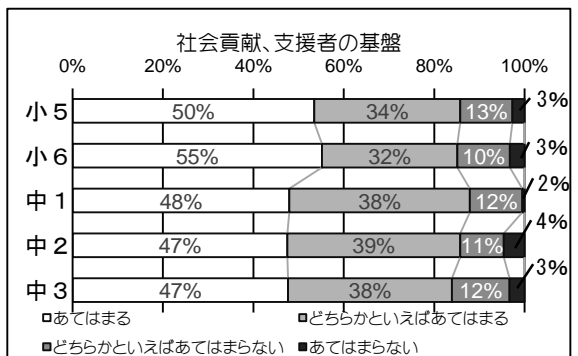
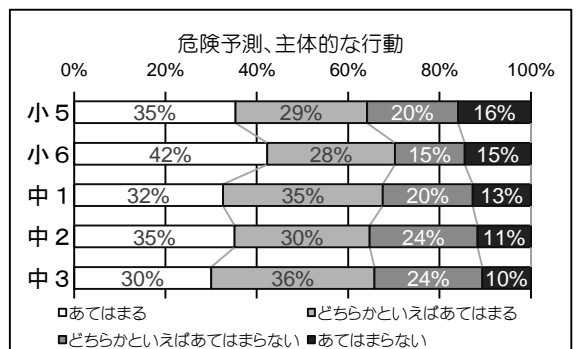
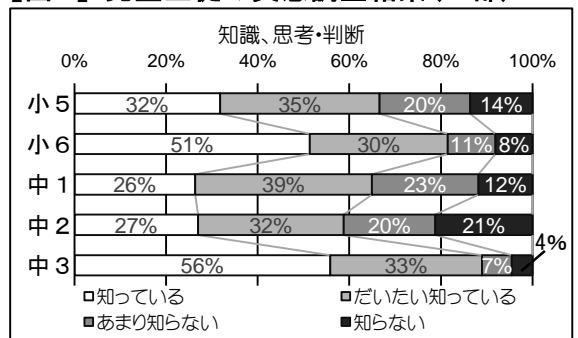
以上のことから、児童生徒の指導について、次のことが考えられる。

- 「危険予測、主体的な行動」を重点とした指導が必要である。
- 指導者が、各発達の段階の目指す姿に応じた学習内容を取り扱ったり、指導の方法を工夫したりする必要がある。

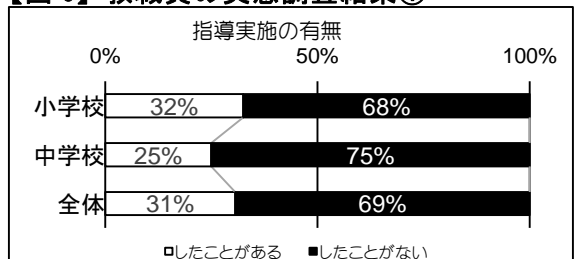
(2) 教職員に対する実態調査

教職員の防災教育の指導実態等を把握するため、実態調査（本校教職員20名及び本校区内小学校の教職員29名 計49名 実施時期：7月）を行った。「指導の実施の有無」は、【図6】で示すように、「ある」の回答が31%である。防災教育に関連する教科、道徳、日常の指導では取り

【図 5】児童生徒の実態調査結果（一部）



【図 6】教職員の実態調査結果①

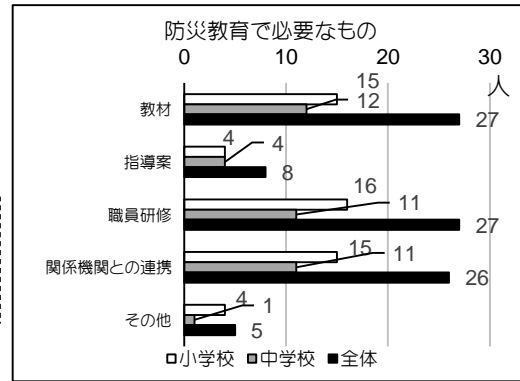


組まれているが、それ以外の教科や学級活動では、ほとんど取り組まれていない。「防災教育に必要なもの」は、【図7】に示すように、「教材」「職員研修」「関係機関との連携」が多い。

教職員の実態調査から、次のことが考えられる。

教職員の指導を支える職員研修等の取組を充実させることで、指導力を向上させていく必要がある。

【図7】教職員の実態調査結果②



4 実践研究

(1) 教職員の防災に関する指導力を向上させる取組（検証Ⅰ）

ア 防災教育資料の作成

防災教育資料として、「指導内容の系統図」「防災教育ヒント集」を作成した。

「指導内容の系統図」は、教職員が小・中9年間での防災教育を見通すことができるように、【図8】のように作成した。作成にあたっては、発達の各段階の目標を防災教育のねらいごとに示したり、目標と指導する単元・題材を併記したりすることで、教職員が発達の各段階での目指す児童生徒の姿や学習内容の系統性を把握できるようにした。また、【表5】で示すように、授業のねらいを達成するために必要な知識・技能を取り扱った教科・題材を指導内容の系統図で確認し、授業づくりの一助となるようにした。

【図8】指導内容の系統図



【表5】授業のねらいと関連する教科・題材(本研究 検証Ⅱに基づく)

授業のねらい	関連する教科・題材
自然災害のメカニズム等、各教科等での既習事項を危険の予測や主体的に命を守るための行動選択に活かす態度を育成する。	小学校高学年 理科「大地のつくりと変化」 中学校 理科「活きている地球」 社会科「日本の諸地域」
自然災害が発生した時、危険を予測し、主体的に命を守るための行動の仕方を考える力を育成する。	全校種 特別活動「避難訓練」 小学校低・中学年 特別活動「大地震にあったら」

「防災教育ヒント集」は、教職員が防災に関する指導方法を把握できるように、【図9】のように作成した。作成にあたっては、全教科の指導例や活用できる教材等を掲載したり、指導例の文末に、指導できる発達の段階をマークで示したりした。また、教職員が様々な指導方法を知る一助となるように、防災に関するホームページを集めて掲載した。

【図9】防災教育ヒント集

防災教育 ヒント集	
◇ 各教科の指導例	
<文末のマーク> 【小低】…小学校低学年向け、【小中】…小学校中学年向け、【小高】…小学校高学年向け、【中学】…中学校向け、【全】…全学年向け	
教科名	取組の内容
国語	○災害を取り上げた絵本の読み聞かせをする。【小低】 ○災害を取り上げた文学を読む。【小中・小高・中学】 ○防災に関する新聞記事を紹介し、感じたことを書く。【小中・小高・中学】 ○様々な自然災害を体験した児童生徒の作文を読む。【全】 ○自然災害に関する川柳や詩を作る。【小高・中学】 ○話し合いやグループディスカッションで、自然災害や防災に関することを取り扱う。【小高・中学】 ○これまでに起こった災害や地域の高齢者が経験した災害について、インタビューする。【小中・小高・中学】
社会	○本県で起こった災害の歴史を教える。【小中・小高・中学】 ○本県で起こった災害に関する史跡めぐりをする。【小中】 (参考資料:「宮崎県における災害文化の伝承」 宮崎県土木部 HPよりダウンロード可能) ○本県で起こった災害と地域の伝統芸能の関連について調べる。【小中・小高】 ○地理的分野を学ぶときに、その地域の災害のビデオや写真等を活用する。【中学】 (活用できる資料:「宮崎県防災教育教材DVD『災害から命を守る』」 宮崎県教育委員会)
算数・数学	○被災地の統計を使って見やすいグラフや表を作る。【小高・中学】
理科	○気象について学ぶときに、気象図等を生かしながら、数日後の天気を予測する。【小高】 ○生物で植物に関して学ぶときに、自然の保全と防災について学ぶ。【小中・小高・中学】 ○地学分野を学ぶときに、その災害のビデオや写真等を活用する。【小高・中学】 (活用できる資料:「宮崎県防災教育教材DVD『災害から命を守る』」 宮崎県教育委員会)
音楽	○歌唱指導の際、様々な自然災害に関するエピソードを紹介する。【全】 (例:「明日という日が」 仙台市立八軒中学校でのエピソード)
体育、 保健体育	○水泳の事前指導で、着衣泳を行う。【小中・小高・中学】 ○水泳の事前指導で、AEDを使った心肺蘇生法などを学習する。【中学】
図画工作、美術	○防災に関するポスターを作成する。【全】
家庭、 技術・家庭	【家庭分野】 ○避難所での食の問題を考える。【小高・中学】 ○自分の部屋の間取りを書いて、危険箇所をチェックし、危険を防ぐ方法や工夫を考える。【小高・中学】 【技術分野】 ○ポータブルラジオ等を作成する時に、災害時にラジオが役立ったことを紹介する。【中学】 ○情報モラルの観点から、電子メールやSNSで得られる自然災害に関する情報をどのように活用するかを考える。【小高・中学】 ○地域の安全マップを作成する際に、インターネットのマップサイトを活用する。【小高・中学】
外国語活動 外国語	○過去に自然災害にあった国のALTから話を聞く。【小高・中学】 ○外国が紹介している日本の災害エピソードの英文を和訳する。【中学】 ○海外の被災地に激励の手紙を書く。【中学】
生活	○まちたんけんの時に、防災に関する標識やその意味について教える。【小低】
総合的な 学習の時間	【福祉】 ○災害を体験した障がい者や高齢者を講師に招き、災害時要援護者の支援について学ぶ。【小高・中学】 ○高齢者や障がい者の疑似体験を行う時に、移動する場所にガレキを置いたり、移動する時間を制限したりするなど、実際に災害が起きた時の状況を設定する。【小高・中学】
◇ 防災教育に関する指導のヒントになるホームページ	
ホームページ名	アドレス
防災教育チャレンジプラン	http://www.bosai-study.net/
防災教育支援推進ポータル	http://www.iishin.go.jp/main/bosai/kyoiku-shien/bosai.html
チャレンジ防災48	http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html
NHK そなえる防災	http://www.nhk.or.jp/sonae/
宮崎地方気象台	http://www.jma-net.go.jp/miyazaki/

イ 防災教育研修プログラムの実際

「防災教育に関する講義」「防災ワークショップ」を以下のように実施した。

実施日	平成 25 年 8 月 22 日	対象者	本校教職員 17 名
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ これからの防災教育と指導例を理解することで、指導に必要な知識の習得を目指す。 ○ 災害で起こる危険とその対策等を考えることで、指導力の向上を目指す。 		
検証の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① 教職員の防災に関する指導力の向上につながる内容になっていたか。 ② 「研修プログラムキット」「防災教育資料」は、防災教育に関する指導を進める際、活用できるものになっていたか。 		

「防災教育に関する講義」実施計画(全 25 分)

時間	参加者の活動内容	ファシリテーターの動き
1分	1 本日のねらいの確認	○ 司会進行表に沿って、進行する。
7分	2 これからの防災教育 (1) 防災教育の見直しまでの経緯 ○ 「東日本大震災で被災した小学生のつばやき」の視聴 ○ 防災教育に関する国や県の取組の把握 (2) 防災教育の概要 防災教育の概要やこれからの動向の把握 ○ 学校安全における防災教育 ○ 「防災学習」と「防災指導」とは ○ 各教育活動の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災を機に防災教育が見直され、その重要性が高まっていることを伝える。 ○ これからの防災教育は、災害に対して主体的に行動する態度の育成を目指していることを強調する。 ○ 道徳の位置付けが明記されたことを伝える。
16分	3 防災教育の進め方 (1) 防災教育で身に付ける力の理解 ○ 「防災対応能力」とは ○ 防災対応能力の育成イメージ (2) 具体的な指導の在り方 防災教育のねらいごとの学習内容の系統性や具体的な指導例を知る。 ○ 「知識、思考・判断」に関する指導 ・ 発達の各段階の目標、学習内容 ・ 指導例 ○ 「危険予測、主体的な行動」に関する指導 ・ 発達の各段階の目標、学習内容 ・ 指導例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災対応能力の育成には、児童生徒の発達の段階への配慮が重要であることを強調する。 ○ 指導内容の系統図を確認させる。 ○ 地域素材を活用するよさを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>内容 「過去に宮崎で起きた災害」</p> <p>資料 「宮崎県における災害文化の伝承」 宮崎県庁 土木課</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導内容の系統図を確認させる。 ○ DVD視聴後、以下のことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急地震速報の活用が有効である。 ・ 児童が主体的に動いている。 ・ 教職員の役割が明確である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>内容 「昼休み時に地震・津波発生を想定した避難訓練」 (宮崎市立宮崎港小学校の例)</p> <p>資料 DVD「災害から命を守る」 宮崎県</p> </div>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「社会貢献、支援者の基盤」に関する指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の各段階の目標、学習内容 ・ 指導例 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の授業における主題が「生命の尊重」「公共心・公德心」「思いやり」「助け合い」である場合、資料が活用できることを伝える。
	<p>(3) 防災学習と防災指導の関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標の確認 ○ 各教育活動の位置付け (中学校2年生の例) 	<p>内容 「宮崎の災害を取り扱った読み物資料の活用」</p> <p>資料 『「命と絆を大切にしよう」道徳読み物資料集』 宮崎県教育委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自校の学校安全計画を確認する。 ○ 「防災教育ヒント集」を確認させながら、防災教育の取組が教育活動全体で行えることを伝える。
1分	4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ できることから取り組むことの大切さを伝える。

「防災教育に関する講義」で活用した研修プログラムキット

【スライド】

「知識、思考・判断」の具体的な指導工夫例

小学校社会科の工夫

地域の安全に関する内容で、本県で起こった災害を紹介する。

地震・津波を例にとると...

- 外所地震（1662年）
供養碑（宮崎市 木花）
- 天正大地震（1585年）
伊形花笠踊り
(延岡市 土々呂 など...)

小学3・4年単元「くらしを守る」での工夫例です。★県土木課が作成した資料「宮崎県における災害文化の伝承」を活用し、本県での自然災害とその歴史を授業のまとめなどで紹介します。例えば、★「宮崎市木花地区には津波の供養碑があること」や「延岡市土々呂地区の伊形花笠踊りは、津波を収めてくれた白鷺への感謝の踊りである」などです。自分の身近に災害に関する言い伝えなどの存在を知ることで、災害に対する安全への関心を高めることができます。★

【司会進行表】（一部）


18	<p>「知識、思考・判断」の具体的な指導工夫例</p> <p>小学校社会科の工夫</p> <p>地域の安全に関する内容で、本県で起こった災害を紹介する。</p> <p>地震・津波を例にとると...</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外所地震（1662年） 供養碑（宮崎市 木花） ○ 天正大地震（1585年） 伊形花笠踊り (延岡市 土々呂 など...) 	<p>小学3・4年社会科の単元「くらしを守る」での工夫例です。★県土木課が作成した資料「宮崎県における災害文化の伝承」を活用し、本県での自然災害とその歴史を授業のまとめなどで紹介します。例えば、★「宮崎市木花地区には津波の供養碑があること」や「延岡市土々呂地区の伊形花笠踊りは、津波を収めてくれた白鷺への感謝の踊りである」などです。自分の身近に災害に関する言い伝えなどの存在を知ることで、災害に対する安全への関心を高めることができます。★</p>
----	---	---

見ながらスライド操作

「防災ワークショップ」実施計画(全60分)

時間	参加者の活動内容	ファシリテーターの動き
1分	1 本日のねらいの確認	○ 司会進行表に沿って、進行する。
3分	2 課題把握 想定した災害や場所を確認する。	○ 図書館の写真を見せる。

社会見学で図書館を訪問した際、震度6の地震が発生した。

<p>6分</p> <p>8分</p>	<p>3 危険予測</p> <p>(1) 個人で、「考えられる危険」を付箋（色A）に書き出し、写真の該当する場所に貼る。</p> <p>(2) 「考えられる危険」を共有する。</p> 	<p>○ 付箋の書き出し方を伝える。</p> <p>「写真はあくまで考えるための視点です。写真に写ってないことに関しても考えてください。」</p> <p>「物理的な危険だけでなく、人間の心理から起こる危険も考えてください。」</p> <p>「1枚の付箋に1つだけ書いてください。」</p> <p>○ 話し合いが進展しないグループは、他のグループの様子を伝える。</p>
<p>4分</p> <p>8分</p> <p>12分</p>	<p>4 対策の検討</p> <p>(1) 個人で「具体的な対策、児童生徒等への指導」を考え、付箋（色B）に書き出し、写真の該当場所に貼る。</p> <p>(2) 「具体的な対策、児童生徒等への指導」について、話し合う。</p> <p>(3) 付箋（色B）をグループ化し、模造紙にまとめる。</p>	<p>○ 付箋の書き出し方を伝える。</p> <p>「先ほどと同じように思いつくことをたくさん書いてください。」</p> <p>○ 話し合いが進展しないグループは、他のグループの様子を伝える。</p> <p>○ まとめ方の例を伝える。</p> <p>「まとめ方は、『対策』『指導』『発生前』『発生時』『発生後』のように分けて考えてみてください。」</p>
<p>13分</p> <p>5分</p>	<p>5 防災ワークショップのまとめ</p> <p>(1) 全体でシェアリングをする。</p> <p>(2) ワークショップの振り返りをする。</p>	<p>○ 模造紙等を使って発表させる。</p> <p>○ 質疑応答の時間を設ける。</p> <p>○ 「振り返りの視点」を参考に、研修のまとめをする。</p>

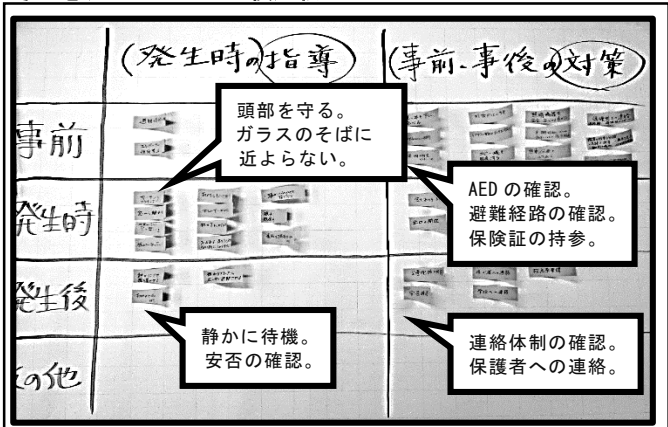
振り返りの視点

- 事前の危機管理…避難場所、保護者への連絡方法、情報収集体制の確認。
- 発生時・発生後の危機管理…係員の指示に従う。児童生徒の安全確保。
- 家庭との連携…保護者に、事前の危機管理に関する情報の周知。

「防災ワークショップ」で活用した研修プログラムキット



考えをグループ化した模造紙



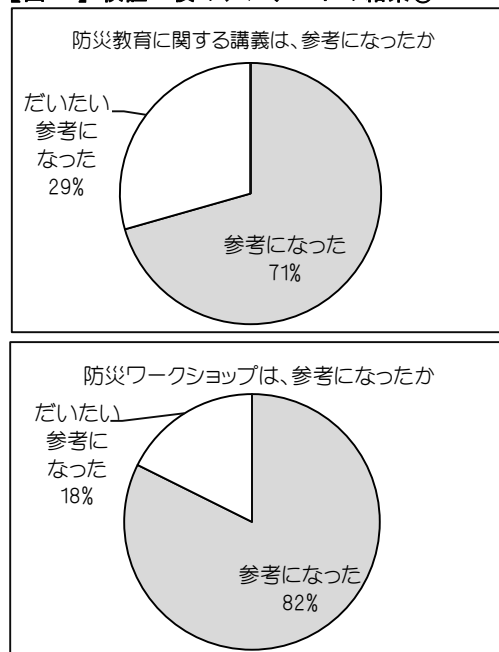
<検証の視点①> 「教職員の防災に関する指導力の向上につながる内容になっていたか」に関して

自由記述式アンケートによると、「防災は身近な問題である」「日頃からの防災意識を高めることが重要である」等、防災教育の重要性に関する記述が多かった。

防災教育に関する講義に関しては、【図 10】に示すように、「参考になった」との回答は 71%であった。要因として、紹介した指導例では、具体的なイメージをもてなかったことが考えられる。

防災ワークショップに関しては、【図 10】に示すように、「参考になった」との回答は 82%であった。要因として、ワークショップに実際に取り組んだことで、指導方法が具体的にイメージできたことが考えられる。

【図 10】 検証 I 後のアンケートの結果①



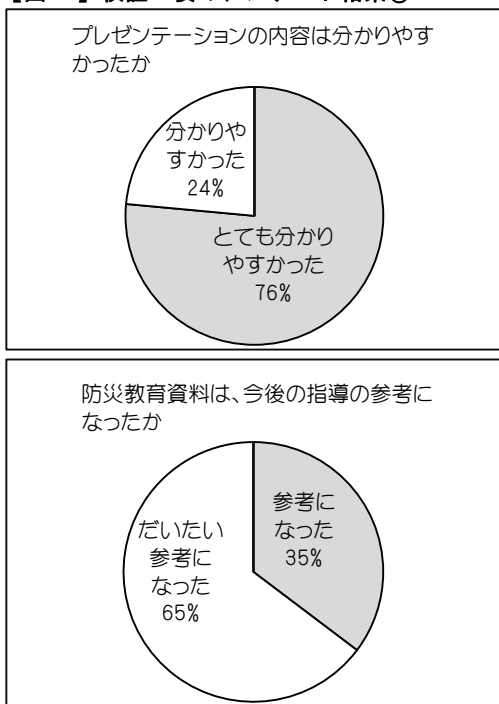
<検証の視点②> 『研修プログラムキット』『防災教育資料』は、防災教育に関する指導を進める際、活用できるものになっていたか」に関して

防災教育に関する講義で使ったプレゼンテーションの内容に関しては、【図 11】に示すように、「とても分かりやすかった」との回答は 76%であった。要因として、教職員が防災教育の概要は理解できたが、指導例についてもう少し詳しく知りたいと感じたことが考えられる。

また、「防災教育資料」については、「だいたい参考になった」との回答が 65%であった。要因として、研修では「防災教育資料」の紹介だけに留まり、日常の指導への生かし方に関する説明が十分でなかったことが考えられる。

以上の分析・考察より、検証 I の成果と課題は以下のとおりである。

【図 11】 検証 I 後のアンケート結果②



成果

- 「防災教育研修プログラム」を実施したり、「防災教育資料」をもとに、日頃から防災教育の学習内容を確認できるようにしたりすることで、教職員が防災に関する指導の在り方を把握することができた。
- 「防災ワークショップ」を実施したことで、教職員が、防災教育の具体的な指導方法を把握し、指導力向上に対する意欲が高まった。

課題

- 「防災教育に関する講義」「防災教育資料」について、教職員にその指導方法を具体的に把握させる工夫が必要である。

(2) 防災対応能力を育成する学級活動の実際（検証Ⅱ）

第2学年学級活動「災害が発生した時の対応を考える」を以下のように実施した。

実施日	平成25年10月30日	対象者	本校 第2学年生徒 29名
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然災害のメカニズムなど、各教科等での既習事項を危険の予測や主体的に命を守るための行動選択に活用する態度を育成する。 ○ 自然災害が発生した時、危険を予測し、主体的に命を守るための行動の仕方考える力を育成する。 		
検証の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① 本時のねらいを達成できるものであったか。 ② 「防災指導の4つのポイント」を意識した手立ては、有効であったか。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 動機付け…「視覚教材(スライド)の活用」 ○ 設定・提示…「地域や生徒の実態を考慮した災害(地震)の設定」 「視覚教材(写真)の活用」 ○ 想起…「動画の活用」「付箋やグループ用写真の活用」 ○ アドバイス…「危険な場所の見付け方」「安全な場所の例」 		

学習指導過程

段階(分)	学習内容及び学習活動	形態	指導上の留意点	準備
導入(5)	<p>1 日本での自然災害を把握する。</p> <p>動機付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本で起こった自然災害による被害の写真を見る。  <ul style="list-style-type: none"> ○ スライドを見て感じたことを発表する。 <p>2 本時の課題を知る。</p> <p>災害が発生した時、どのような行動をとればよいのだろうか。</p>	全体 全体 全体	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然災害の現状を知らせることで、日本では多くの自然災害が発生していることを実感させる。 ○ 「外所地震」のエピソードを紹介することで、宮崎県でも大きな自然災害が起こったことを実感させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題を、生徒の発表から引き出すようにする。 	スライド 課題カード
展開前段(25)	<p>3 学習課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 考える場面を知る。 <p>設定・提示</p> <p>あなたは、自宅から30分の場所にある図書館にいます。 図書館の中を歩いていると、震度5強の地震が起きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真を見る。  	全体 全体		場面カード 大写真

想起(知識「理科の既習事項」)

- 動画(DVD「災害から命を守る」宮崎県)を見て、震度 5 強時の被害をイメージする。

全体

- 震度 5 強の被害状況を想起させるために、揺れの前後でどのような変化があったかを発表させる。

動画

4 話し合い活動のルールを確認する。

全体

- 自分の意見を率直に述べることを伝える。
- 相手の意見を尊重する態度で話し合いに臨むことを伝える。

<話し合い活動のルール>

- 意見を積極的に述べよう。
- 考えた理由を述べよう。
- 相手の意見と違う時は、代わりの案を出そう。

5 危険な場所を見付ける。

- 教師から、危険な場所を見付ける時のポイントを聞く。

全体

アドバイス

- 危険な場所は写真に写っているものだけでなく、人の心理状態(パニック)によって、危険な場所になりうることに注目させる。

想起(技能「コミュニケーションの準備」)

- グループ用写真を見ながら危険の内容を付箋(色 A)に書き、写真の該当する場所に貼る。

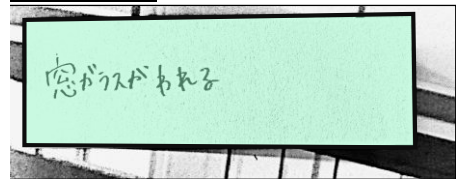
個人

- 1つの付箋に1つだけ書くこと、できるだけたくさん見付けることを伝える。

グループ用写真付箋(色 A)



付箋(色 A)



- 貼られた付箋(色 A)を見て、危険な場所とその理由を共有する。

グループ

- 話し合いのルールに沿って、活動が行われているかを確認する。
- 意見交換が活発に行われていないグループには、他のグループの様子を伝える。
- 危険な場所を把握した後、安全な場所で身を守ることに気付かせる。

6 危険な場所を全体でシェアリングする。

全体

- 黒板に貼られた写真の該当する場所に付箋(色 C)を貼る。
- 他の班の付箋(色 C)を見ながら、意見交換をする。

個人

アドバイス

- 「地震発生時の基本行動(物が落ちてこない・倒れてこない・移動してこない場所で身を守る)」を想起させる。

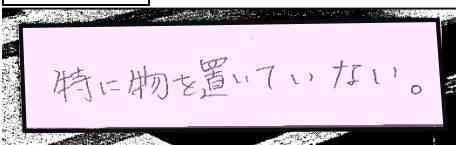
7 安全な場所を見付ける。

- 教師から、安全な場所を見付ける時のポイントを聞く。

個人

- 各グループ用の写真を見ながら安全な場所とその理由を付箋(色 B)に書き、写真の該当する場所に貼る。

付箋(色 B)



	<p>想起(技能「他者とのコミュニケーション」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 貼られた付箋(色B)を見て、安全な場所とその理由を共有する。 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 危険な場所と安全な場所を比較させるため、付箋(色A)は、はがさないようにすることを伝える。 ○ 話合いのルールに沿って、活動が行われているかを確認する。 ○ 意見交換が活発に行われていないグループには、他のグループの様子を伝える。 	
<p>展開後段 (15)</p>	<p>アドバイス</p> <p>8 安全な場所を全体でシェアリングする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 黒板に貼られた写真の該当する場所に付箋(色C)を貼る。 ○ 他の班の付箋(色C)を見ながら、意見交換をする。 	全体	<p>付箋(色C)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災上、望ましい場所が選択できているかを確認するために、「安全な場所の例」を念頭に置いて、シェアリングを進める。 <p>安全な場所の例</p> 	付箋(色C)
	<p>アドバイス</p> <p>9 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 状況を見ながら、危険な場所を予測し、安全な場所に率先して避難する。 ○ 事前に安全な場所や非常口を確認しておく。(備えをしっかりする) 	全体	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のまとめを生徒から引き出すために、本時の学習で大切だと思ったことを尋ねる。 	まとめのカード
<p>終末 (5)</p>	<p>10 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに本時の感想を記入する。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習を十分振り返らせた後、感想を書かせる。 	ワークシート

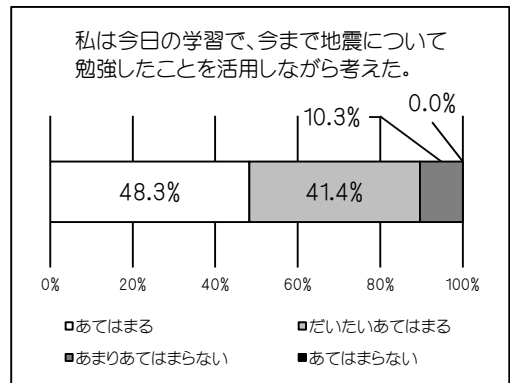
検証Ⅱ終了後、選択式の自己評価と本時の授業の感想を記入させた。生徒の自己評価の結果は、【図12】【図13】のとおりである。

＜検証の視点①＞

「本時のねらい『自然のメカニズムなど、各教科等での既習事項を危険の予測や主体的に命を守るための行動選択に生かす態度を育成する』を達成できるものであったか」に関して

【図12】で示すように、肯定的な回答の割合は89.7%であり、既習事項の活用は概ねできていたが既習事項を思い出せない生徒もいた。要因として、既習事項を常時掲示しておく等の工夫が不足していたことが考えられる。

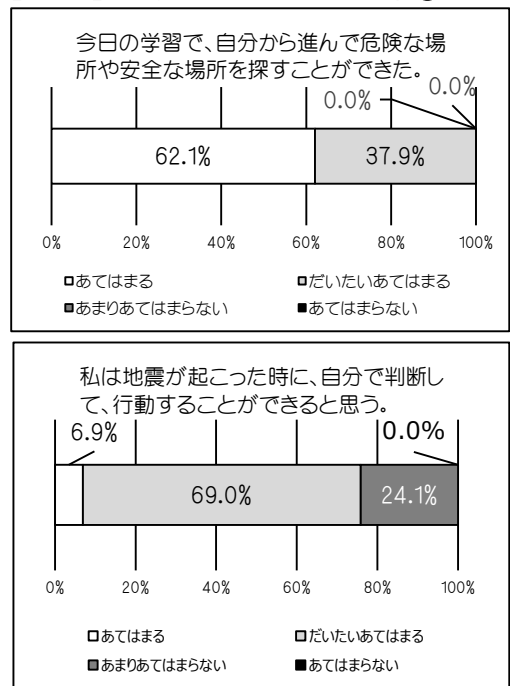
【図12】生徒の自己評価の結果①



「本時のねらい『自然災害が発生した時、危険を予測し、主体的に命を守るための行動の仕方を考える力を育成する』を達成できるものであったか」に関して

「今日の学習で、自分から進んで危険な場所や安全な場所を探すことができた」について、肯定的な回答の割合は【図13】で示すように、100%であった。また、生徒の感想を防災教育のねらいごとに分類してみると、【表6】に示すように、「危険予測、主体的な行動」に関することが30人中21人と多く、本時の学習がねらいにせまることができたと考える。要因として、「動機付け」でのスライドの活用、「設定・提示」で写真等を活用した場面設定が有効であったことが考えられる。
一方で、「地震が起こった時に、自分で判断し、行動することができると思う」の肯定的な回答の割合は75.9%であった。要因として、個人思考やグループでの話し合いの時に、適切な助言が十分でなかったことが考えられる。

【図13】生徒の自己評価の結果②



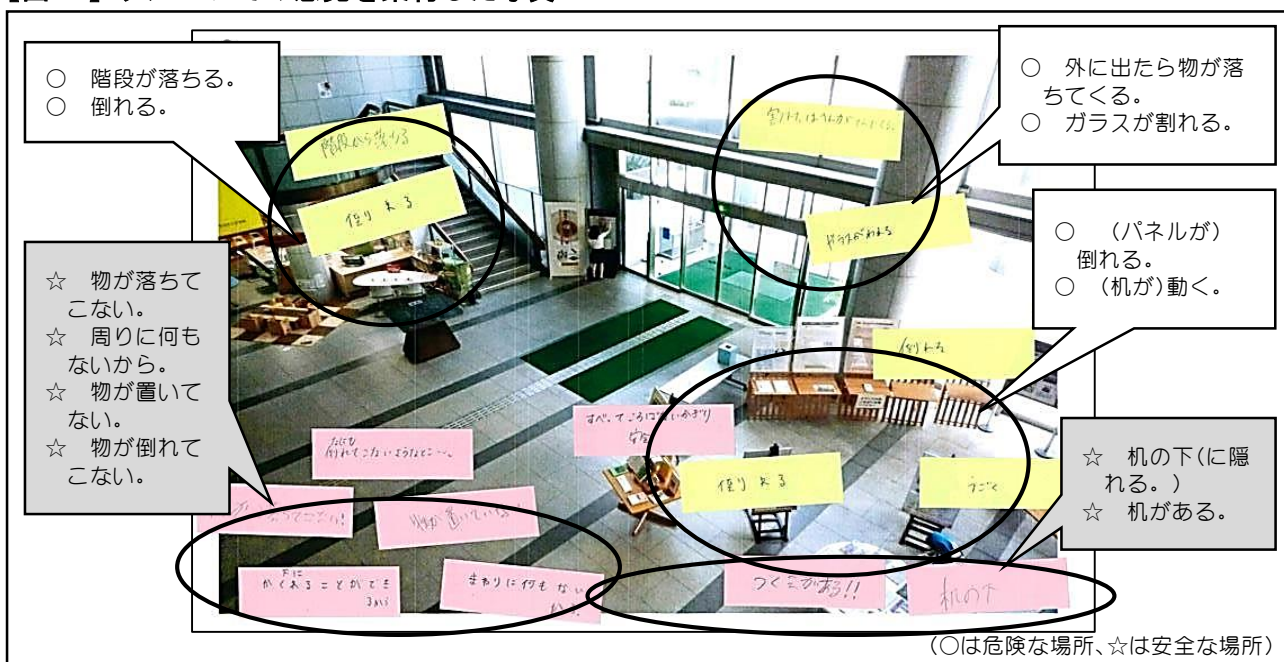
【表6】検証Ⅱ後の生徒の感想(一部)

防災教育のねらい	人数	感想の内容
知識、思考・判断	4	「地震などの災害のことについて、理解することができた。」 「災害への恐怖や災害に対する知識などを得ることができた。」 「自分が知らないところで、たくさん災害が起きていることを知った。」
危険予測、主体的な行動	21	「落ち着いて行動し、安全な場所を見付けるようになったと思う。」 「事前に危険な場所を知っておくべきだと思った。」 「普段から冷静に行動できるよう、鍛えていこうと思う。」 「今回は室内のことを考えたが、外にいるときのことでも調べておきたい。」 「安全と判断した場所が必ず安全だとは限らないので、周りをちゃんと見て、危ないときはちゃんと逃げるようにしたい。」 「家でも家具を支えるものをつけたり、物を落ちにくくする対策をたくさんしたりしていきたい。」 「私は家の中で起きた時の経験がないので、もし起きたら、今日習ったことを生かしていきたい。」
社会貢献、支援者の基盤	4	「自分の命だけでなく、高齢者や小さい子どもも自分から助けられるように、きっちり判断していきたい。」 「誘導する側の人になれるか分からないけどなりたい。」

<検証の視点②> 『防災指導の4つのポイント』は有効であったか』に関して

- 「動機付け」について、行動を観察すると、どの生徒も真剣に自ら進んで取り組んでいた。また、授業後の感想にも、日本で発生した災害の現状への驚きや自然の畏怖に関する記述があり(【表6】参照)、スライドの活用は有効であったと考えられる。
- 「設定・提示」について、行動の観察から、生徒が想定された場面を的確にイメージし、活動を始めており、写真の活用は有効であったと考えられる。
- 「想起」について、全てのグループの写真に貼られた付箋には、「机が動く」「天井の照明が落ちる」等、震度に合った言葉が数多く書かれており、動画の視聴による知識の想起は概ね有効であったと考えられる(【図14】参照)。また、行動の観察から、付箋に書いたことを根拠に、自分の考えを伝えたり、他者に質問したりする等、活発に意見交換がなされ、付箋の活用による技能(他者とのコミュニケーション)の想起は概ね有効であったと考えられる。一方で、付箋に自分の考えを書くことに戸惑っていた生徒が数名いた。要因として、想起した知識から、どのような被害が起きるかをイメージできなかったこと、災害はイメージできたが、安全な場所を見付けるために、知識をどのように活用すればよいのか分からなかったことが考えられる。
- 「アドバイス」について、【表6】に示す生徒の感想には、危険な場所・安全な場所の見付け方や日頃からの心がけの重要性について書かれていたものが多かった。また、全体でのシェアリングの指導者の説明に対し、生徒の多くは「なるほど!」と納得しており、「安全な場所の例」等を活用した助言は概ね有効であったと考えられる。

【図14】グループでの意見を集約した写真



以上の分析・考察より、検証Ⅱの成果と課題は以下のとおりである。

成果

- 「防災指導の4つのポイント」を意図的に位置付けて指導したことで、多くの生徒が、今までに身に付けた知識・技能を活用し、自ら進んで、災害への対応を考えることができた。
- 「防災指導の4つのポイント」のうち、「動機付け」「設定・提示」に関しては、生徒が災害は自分にも関係あることととらえ、災害時に何をすべきかを考えさせることができた。

課題

- 「防災指導の4つのポイント」のうち、「想起」「アドバイス」に関しては、知識・技能の活用が難しい生徒への支援の工夫を考える必要がある。

Ⅷ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 防災対応能力の育成イメージをもとに、指導力の向上、防災対応能力の育成を重点化した研究を進め、小・中 9 年間を見通した防災教育の在り方を明確にすることができた。
- 防災教育資料による指導内容の確認や防災教育研修プログラムを実施したことで、教職員の多くが防災に関するより効果的な指導方法を習得し、指導力向上に対する意欲が高まった。
- 学級活動において「防災指導の 4 つのポイント」を位置付け、生徒が知識・技能を活用し、主体的に課題解決できる授業を構築することができた。さらに、生徒の防災に関する学習意欲を向上させ、防災対応能力の育成へとつなげることができた。

2 研究の課題

- 防災教育研修プログラムを活用した職員研修をさらに充実させるとともに、防災教育資料を活用した啓発をより推進する必要がある。
- 「防災指導の 4 つのポイント」を位置付けた学級活動について、児童生徒や地域の実態に合った授業が展開できるようにするために、様々な学習課題を作成し、選択できるようにする必要がある。さらに、知識・技能の活用が難しい児童生徒への支援の工夫が必要である。
- 児童生徒が、災害時に、主体的な判断・行動と周囲に合わせた行動を適切に選択できるように、今まで行われてきた避難訓練と「防災指導の 4 つのポイント」を位置付けた学級活動を関連付け、小学校と中学校が共に連携し、実施していく必要がある。

引用・参考文献

- 『生きる力』を育む防災教育の展開 (平成 25 年 4 月 文部科学省)
- 『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育 (平成 22 年 3 月 文部科学省)
- 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 (平成 22 年 9 月 文部科学省)
- 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 (平成 22 年 9 月 文部科学省)
- 「学校防災マニュアル(地震・津波災害)作成の手引き」 (平成 24 年 3 月 文部科学省)
- 「みやぎ学校安全基本指針」 (平成 24 年 10 月 宮城県教育委員会)
- 「岩手県における初等・中等教育段階での防災教育の実施状況について」 (平成 20 年 8 月 岩手県立大学)
- 「和歌山県北部の児童・生徒・学生に行った防災教育意識調査」 (平成 22 年 和歌山大学教育学部教育実践総合センター)
- 「防災主任を中心とした防災教育の推進に関する研究」 (平成 25 年 2 月 宮城県教育研修センター)
- 「夢見る防災教育」 (矢守克也 著 平成 19 年 晃洋書房)
- 「命を守る防災教育」 (片田敏孝 著 平成 24 年 2 月 PHP 研究所)
- 「人が死なない防災」 (片田敏孝 著 平成 24 年 3 月 集英社新書)
- 「DVD『災害から命を守る』 ～意識が変わる・行動が変わる～」 (平成 25 年 3 月 宮崎県)